

平成 19 年度 Prof. Gabriel TACCINO (ガブリエル タッキーノ)
 大学院客員教授による公開レッスン

公開レッスン期間 平成 19 年 6 月 8 日(金) / 6 月 9 日(土)
 (Term) (Friday June 8,2007 / Saturday June 9,2007)
 科目名 ピアノ曲作品研究A
 (Subject) (Study of Piano Piece A I・III)
 場 所 ホール Do
 (Place)

通 訳 : 橋高 昌男

Masao Kitsutaka

Program

6 月 8 日(金)

13:00 - 14:00	067104 Yukari Sakamoto	Theme Varie -----	F.Poulenc
	(院 2 年) 坂本 友香利	主題と変奏	プーランク
14:00 - 15:00	067103 Junko Kusui	L'isle joyeuse -----	C.Debussy
	(院 2 年) 楠井 淳子	喜びの島	ドビュッシー
~ 10 分休憩 (an interval) ~			
15:10 - 16:10	077112 Mayumi Wakayama	「Isoldens Liebetod」aus Tristan und Isolde -----	R.Wagner/F.Liszt
	(院 1 年) 若山 真由美	イゾルデの愛の死	ワーグナー/リスト
16:10 - 17:10	061033 Mayu Noguchi	「Miroirs」 2.Oiseaux tristes -----	M.Ravel
	(学部 2 年) 野口 真由	3.Une barque sur l'océan	ラヴェル
		「鏡」より 2.悲しい鳥たち	
		3.洋上の小舟	
~ 10 分休憩 (an interval) ~			
17:20 - 18:20	051035 Kanako Suzuki	Ballade No.4 f-moll op.52 -----	F.Chopin
	(学部 3 年) 鈴木 加奈子	バラード 第 4 番 へ短調 op.52	ショパン

6月9日(土)

10:30 - 11:30 077108 Masatomo Takeyama Variations serieuses d-moll op.54 ——— F.Mendelssohn
(院1年) 竹山 正知 厳格なる変奏曲 二短調 op.54 メンデルスゾーン

11:30 - 12:30 077109 Aki Higasiya Sonata No.3 op.46 ~ 1mov. 2mov. ——— D.Kabalevsky
(院1年) 東谷 亜紀 ソナタ 第3番 op.46より 第1、2楽章 カバレフスキー

~ お昼休憩 12:30-13:30 (an interval) ~

13:30 - 14:30 051051 Ayano Harada Sonata-Fantasy No.2 gis-moll op.19 ——— A.Scriabin
(学部3年) 原田 彩乃 ソナタ 第2番「幻想ソナタ」嬰ト短調 op.19 スクリャービン

14:30 - 15:30 041063 Eri Yamaguchi Etude-tableaux op.39-4 h-moll ——— S.Rachmaninoff
(学部4年) 山口 絵里 5 es-moll ラフマニノフ
絵画的練習曲集 op.39より 4番 口短調
5番 変ホ短調

~ 10分休憩 (an interval) ~

15:40 - 16:40 041064 Nanayo Yamada 32 Variatioen uber ein eigenes Thema c-moll WoO.80 L.v.Beethoven
(学部4年) 山田 那奈代 創作主題による32の変奏曲 八短調 WoO.80 ベートーヴェン

Gabriel TACCINO プロフィール

Gabriel TACCINO 氏が国際的に活躍するきっかけとなったのは、彼の演奏を聴いたカラヤンが、ベルリンフィルや“Alta Scala”Milano Orchestra との共演、またウィーン音楽祭への出演を依頼したことによる。このすばらしい機会にめぐまれた後、Gabriel TACCINO 氏は、Pierre Monteux, Andre Cluyrens, Eric Leinsdorf, Jascha Horenstein, Riccard Mutti, Christoph von Dohnanyl, Armin Jordan, 岩城宏之, Stanislas Skrowaczewsky, Raphael Frubeck de Burgos, Eliahu Inbal, Leopold Hager, Evelino Pido 等、一流の指揮者との共演が始まった。また、これらの活躍にとどまらず室内楽の演奏も行い、Issac Stern, Jean-Pierre Rampal, Augustin Dunay, Patrick Gallois, Maxence Larrieu, Marielle Nordmann, Patrice Fontanaross, Bruno Rigutto, Mediel Quartett, Quatuor Sine Nomine, Quatuor Manfred 等と好演している。

フランス・プーランクの愛弟子であった彼は、たくいまれな技法をその原点において習得しただけでなく、この大家のフレージングや形式に対して独自の理解を示した、というすばらしい評価を得た。そのため彼の解釈は参照すべきものとされている。

Gabriel TACCINO 氏は Pierre Amoyal とのピアノとヴァイオリンによるデュオ、Sandrine TACCINO 氏との四手連弾や二台ピアノによるリサイタル、Quatuor Enosco や Fine Arts Quartet との五重奏を特に精力的に行っている。